

事業名：子育てひろば事業

質問内容	回答内容
委託料の積算は全実施場所での標準的な金額を設定しているのか。	そのとおりである。なお、事業の実施場所により賃借料などは状況に応じて加算している。
どのように区として適正な価格を担保しているのか。	近年で言うと、物価高騰の状況や人件費の増などを踏まえて委託料を見直し、事業者との合意の上、委託契約を結んでいる。
委託料について、委託事業の中で実際にどのように使われたのかという検証はできるのか。	委託契約により実施しているものであり、区が支払った委託料がどのように使用されているかといった状況に係る実績報告は想定されないため、検証ができるものではない。
利用者数が著しく少ない場所では、単位コストが高くなっている。そのような場所はどのような状況か。	沼袋地域のペンギン広場は利用者数が少ない状況であり、単位コストでみれば他の実施場所と比較して高くなっているものと認識している。当該実施場所は、ビルの3階で実施しており、またエレベーターの不具合もみられ、ベビーカーでの利用が難しいといった状況であり、実施場所に課題があると考えている。なお、当該ビルは道路幅の対象地域であることから、エレベーターの修繕についても見込みづらい状況にある。
拡幅に伴う立ち退きがあった場合はどのように対応するのか。	実施場所は委託事業者が探すこととなる。
事業目的として、孤立を感じないようにとあるが、それが達成できているのか。もしくは、対象者がわかるのであれば、個別アプローチすべきではないか。	孤立していて本事業を利用できない方も一定数いるとは考えており、周知が重要となると認識している。また、育児不安など、孤立を感じていて、すこやか福祉センターに相談しているような場合もある。このため、相談機関との連携により、当該事業の利用を促すなどの取組をおこなっていく必要がある。
孤立していて、相談もできていないような方については、今後把握に努めていくべきと考える。	—
当該事業の相談件数について、他区との比較はしているか。	現段階では行えていない。
コロナの影響で利用数が減少していたことから、令和元年以前との比較が重要と考える。そこと比較するとどのような傾向になっているか。	元年度の終わりから2年度にかけてがコロナの影響が大きかった時期ということもあるが、3年度の方が利用が多い状況であった。ただし、令和元年度と比較して、令和3年度は実施場所が増えているという状況がある。
委託料が基本的に変更されない中、利用者が増えているという状況は、事業者の運営が逼迫していることはないのか。	人件費の上昇や物価高騰を踏まえた光熱水費の増などを踏まえた対応を行っており、事業者からも運営が逼迫しているといった声は上がっていない。
児童館で実施している内容について、直営から委託化は検討しているのか。	現状、全館直営により運営しているが、今後、乳幼児機能強化型の児童館については、委託化する方向で進めている。
地区ごとに存在している子育てひろばについては、対象人口のばらつきがあるのではないかと思う。対象人口あたりの利用率などの視点から分析しているか。実施していないのであれば、今後行うべきと考える。	児童館で実施している分も含めて、地域別の人口からの分析は現状実施していない状況である。
委託事業者によって相談件数にばらつきがあるが、カウントの方法が統一されていないのではないか。	カウントの方法について、相談1件の捉え方が異なる状況にある。
相談件数のカウントの仕方を含め、事業者間でサービス水準に差異が見受けられる。今後、受託者によって異なることがないようサービス水準を統一すべきと考える。	相談件数のカウント方法については、受託事業者との連絡会において統一に向け、協議を進めている。